

令和 3 年度

1 自己評価及び外部評価結果

事業所名： 岩手高齢協 ほっと南仙北

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0370101610		
法人名	岩手県高齢者福祉生活協同組合		
事業所名	岩手高齢協 ほっと南仙北		
所在地	盛岡市南仙北2丁目3-37		
自己評価作成日	令和3年9月29日	評価結果市町村受理日	令和3年12月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>「ほっと南仙北は一棟定員9名の家です。住居の中で、くつろぎながらその人らしく生活を送れる事を目的として安らぎのある生活を目指しています。本人及び家族の希望がある場合はそれぞれの主治医、訪問看護ステーションと連携を密にして見取りを含めたトータルなケアを提供します。また入所者の生活リズムを大切に安心、安全をもっとして生活全般を支えます。</p>
--

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou</a>
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所は、盛岡市南部東北本線沿いの、比較的閑静な住宅街に立地した1棟のグループホームである。職員は、理念にある「なごめる」「ほっとできる」「その人らしく」の暮らしの提供に日々努力している。利用者は、敷地内の家庭菜園で野菜を育て、季節の変化を感じ、職員とのコミュニケーションも良く、家族に送付している「ほっとかわら版」の利用者の表情からも、和やかな生活が送れていることが窺われる。コロナ禍ではあるが、感染防止を徹底し、家族との面会を支援し利用者に安心感を与えている。運営推進会議も、事業所で開催し、全家族に案内を出し家族の意見を聞く場として、かかりつけ医や訪問看護ステーションと連携を図り、看取りを含め、適切な医療を提供している。今後も、管理者の指導の下、経験豊かな職員とともに、安心・安全をモットーに、質の高いサービスを提供し、利用者の生活を支える事業所として期待される。</p>
---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和3年10月22日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : 岩手高齢協 ほっと南仙北

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	三蜜を防ぐ観点でミーティングやカンファレンスも開催できない状況の中で普段の昼休み等を活用し話し合っている。理念等は業務日誌に記載している。	事業所の理念「なごめる」「ほっとできる」「その人らしく」を業務日誌に記載し、常に意識するよう心掛けている。事業所の広報紙「ほっとかわら版」にも記載し、家族や関係者に周知している。理念のもと、安心安全をモットーに、健康で元気に暮らす生活の提供に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍で本年度は地域との交流はなかったが畑は地域住民に開放しており近所の方が耕作している。	コロナ禍で、地域との交流は希薄であるが、事業所の畑を地域に開放している。看取りを行い7回忌となる利用者の家族が畑を耕作してくれている。コロナ解除後、盛岡大学付属高校の地域音楽部との交流を再開する予定である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	本年度は地域に向けた活動はできていないが、盛岡市より小中学生に向けた介護講習の依頼は来ている。時期は不明		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度は会議等の開催は難しくできるだけ家族には現在の状況など伝えるよう心掛けている。施設運営に関しての意見をいえるよう家族通信等活用して周知を図っている。	運営推進会議は、土曜日に開催しており、民生委員、地域包括支援センター職員、家族(毎回3人~4人)、本部、所長・副所長が参加している。利用者の参加はない。会議では、利用料金の値上げ、制度改正、コロナ感染防止対策など時宜にかなった情報を提供している。参加者全員から意見を引き出し、適切な回答をしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	生活保護受給者2名入所されており、生活福祉課と連絡とりながら自己決定や尊厳を守るよう援助に努めている。	利用者の要介護認定申請の手続きに市の窓口に出向いている。市から、コロナ感染予防のためのマスク・ゴム手袋等衛生用品を支給されており、その在庫確認の報告や介護保険に関するリモート伝達・FAX、空気清浄機設置の補助金申請など、協力関係が築かれている。運営推進会議に、地域包括支援センターの職員が毎回参加し、意見を頂いている。市生活福祉課との連携も図れている。	

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : 岩手高齢協 ほっと南仙北

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	所長は身体拘束廃止推進委員で常に拘束しないケアを実践している。不適切な言動等見られた場合には適切に対応するよう指導するようここがけている。	身体拘束をしないケアを実践している。コロナの解除後、身体拘束適正化委員会(兼虐待防止委員会)の開催と、スピーチロックの研修を予定している。転倒防止のため(転倒した場合の職員の心の傷となることに配慮)居室に人感センサー(6個程度)を置いている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	無理時をしないケアに努めている。不適切な言動等見られた場合には適切に対応するよう指導するようここがけている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	本年度は権利擁護についての学ぶ機会がないが日々の会話の中で話す機会はある。必要性は十分に理解をしていると思う。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	4月からの介護報酬改に伴い運営推進会議を活用、出席できない家族に関しては手紙等だし全家族より報酬改定の同意をいただいた。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	スタッフは利用者と日々の会話の中で耳を傾けまた意をくみ取るよう心掛け時には家族に繋げている。運営推進会議や電話等活用し家族からの意見を聞き出しホームの運営に役立てている。	各家族に、利用料金の請求書とともに、所長のコメントを付し、生活状況をお知らせしている。家族からは、要望はあまり無く、お世話になっているとの感謝の言葉が聞かれる。家族との連絡は、一貫した対応とするため、所長が担当している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の会話などでスタッフの要望等聞き出し福祉部会や理事会に掛けるなどして反映させるよう心掛けている。	ミーティングや日々の会話から聴き留めた職員の意見を運営に反映させている。最近、電化製品の更新時期に当たって洗濯機を購入し併せて水道蛇口の交換を行なったところである。職員は年休3日を確保し、他に必要時に有給休暇を取得できている。	

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : 岩手高齢協 ほっと南仙北

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	恒例協全体は今年も処遇改善加算Ⅰを算定しており、10月より昇給を実施する予定である		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	今年はコロナの関係で研修に出席する機会はなかったがIT機器の整備は整えた。ZOOMでの参加はできるようになった。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナの関係でグループホーム協会及び地区の研修会すら中止になっている。現在はFAXのみで情報を共有している。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	昨年から3名入所されている。本人も今後の生活に不安を抱かないように傾聴に心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の心配を払しょくできるよう傾聴するよう心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	居宅のケアマネより情報をいただき家族の希望等、考慮しながらアセスメントを用いて入所後のケアに役立てている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の場であるリビングにて、入所者に手伝いの依頼をしたり、会話できるようお互いに役割を持てるよう援助に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍で、運営推進会議の開催すら制限されるなか、面会制限等設けず家族を促している。来れない家族には、毎月生活状況ほ報告している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現在特定の家族しか面会がない状況の中、ソーシャルデスタンスを順守して所定の場所での面会をできる旨書面を出し促している。	コロナ禍で外出が困難な中、感染防止を徹底し、家族と事務室での面会を支援している。今後、市の補助金を受け、コロナやインフルエンザの感染予防のための減圧室を(1室)確保し、家族の面会等に活用する予定である。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	1日の生活の場を体調が良ければホールで過ごし役割を持っていただき、それによってお互いなじめるよう援助している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	看取り家族に対しては、何か相談等あったら連絡くださいと話をしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ミーティングやカンファレンスを活用し話し合ったことや会話の中から要望等聞き出した、生活に支障がある入所者に対しては再アセスメントを実施する。	利用者に寄り添うことを心がけ、発する言葉の裏にある真意を的確に探りながら、希望や意向をくみ取っている。「家に帰りたい」は、「私の事」を聞いて欲しいという心の声と捉えている。入居したばかりの家族から、外の空気を吸わせて欲しいとの要望もあった。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や本人との会話の中から情報を聞き出し今後もホームでの生活が継続できるよう援助に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者が発する言葉やしぐさなど観察しながら、必要な時にはチャート記載し申し送りノートを活用しスタッフ間で情報の共有に役立てている。		

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : 岩手高齢協 ほっと南仙北

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の生活状況を月に1回は報告し、プランに希望等あれば考慮して主治医の意見等聞きき、再アセスメントを実施してプランに繋げている	家族に利用者の生活状況を報告(月1回)し、要望等には、かかりつけ医や訪問看護師の意見を聞き、アセスメントを実施、介護計画を作成している。計画は家族に説明し一緒に話し合い了承を得ている。介護計画は3ヵ月毎に見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活状況をチャートに記載、また申し送りノートを活用し情報を共有している。毎日昼食後に入所者の状況説明があって必要時プラン変更を検討する。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	主治医に関しては家族との話し合いで、それぞれ入所者の疾病にあった医師にゆだねている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の情報は包括支援センターを通じて情報を得るようにしている。物品購入に関しても地域から購入するよう心掛けている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族は主治医、ホームは訪問看護と医療契約を結んでいる。主治医は訪問診療の場合は月2回、往診は月1回、訪問看護は週1回火曜日に来訪している。著変時は24時間体制で対応するよう体制を整えている。	かかりつけ医による定期的な訪問診療や24時間対応の訪問看護を導入し、適切な医療を支援している。かかりつけ医への通院時は、家族と一緒に職員も同行し、事業所での生活状況を説明している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護に関しては訪問看護ステーションと24時間対応していただけるよう契約している。		

令和 3 年度

事業所名 : 岩手高齢協 ほっと南仙北

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入所者が入院した場合は入院先の医療連携室と連絡を密にし入所者に不利益がないよう相談や調整を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りに関する指針は策定はしている。家族や本人希望を考慮して医療連携を構築し、今年7月に1名見取り介護を実施した。	看取りの指針を策定し、入居時に家族等に説明している。終末期、夜間の対応が必要な際には、複数の職員が対応できるよう準備している。看取りは家族と一緒に進んでいる。今年7月に看取り介護を実施しており、対応した職員には「お疲れ様でした」とねぎらいの言葉をかけている。今年度はコロナ禍のため実施していないが、平常年は看取りに関する研修を実施している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	今年度はコロナの関係で救命講習には参加していない。利用者のリスクに関してはカンファレンス等で情報を共有し発生時に備えている。今年AEDを新規購入した。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災及び災害に備え避難誘導訓練は年に3回以上実施している。	コロナ禍でもあり、消防署から立会いを断られ、事業所として水害・火災の避難誘導訓練と通報訓練を実施している。市のハザードマップでは水害危険区域となっているが、指定の避難場所への避難は困難なため、隣の会社と、屋上に避難させてもらうよう取り決めしている。	これまで、夜間の訓練が実施されていないことから、暗さの体験をし、課題と対応を検討されたい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声掛けの際は愛情を込めてニックネームで呼ぶことも多々ある。また排泄誘導に関しても周りに配慮した声掛けを心掛けている。	利用者や家族の同意を得て、入居前のニックネームで声掛けしている。職員が入室する際には、ノックし了解得て入室している。排泄介助時は周囲に配慮し、さりげない声掛けで誘導している。利用者が嫌がる話題を避け、否定する言葉は使用しないこととしている。	

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : 岩手高齢協 ほっと南仙北

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	認知症高度のため訴えることは少ないが、本人より希望等があった場合は、自己決定できるよう援助に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	普段の会話の中から利用者の意をくみ取り本人のペースで1日を過ごせるよう心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	清潔をもっととし、自分で選択できるよう声掛けは行っている。また判断等ができない場合はその人の意をくんだ衣類を選んでいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	普段の会話の中から食べたい物を聞き取り提供するよう心掛けている。咀嚼及び嚥下障害がある場合は主治医と相談しながら少しでも安心して食事できるよう提供している。最後にはできる人は茶碗ふきを手伝っていただいている。	食事が楽しみで、季節や行事に応じた食事を提供しているほか、誕生会には、本人の希望を取り入れている。利用者は、白いご飯と味がしっかりついているものが好みである。事業所の畑で採れた野菜を活用している。個々の機能に合わせて、食形態を検討し調理をしている。介護度5で全介助の利用者も、車椅子で食堂と一緒に食事している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事及び水分摂取に関してはチェック表を活用し1日の摂取量を把握して健康管理に努めている。栄養状態が保てない場合は、主治医と相談してカロリーアップ及び栄養補助食品を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後は利用者全員口腔ケアを行うことで嚥下性肺炎予防に努めている。就寝前には必ず毎日義歯洗浄材を使用し、入れ歯の衛生保持に努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用して24時間排泄状況を把握している。表を見ながら排泄の声掛けや誘導を実施している。	自立に向け、布パンツ、リハビリパンツ、尿取りパット等、排泄用品を個々の機能に合わせて検討のうえ使用している。排泄用品は経済的負担を伴うことから、家族の了解を得ている。便秘の予防には、経験知から摺りりんごが効果的である。転倒の不安のある利用者は、居室にポータブルトイレを置いている。	



令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : 岩手高齢協 ほっと南仙北

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防のため毎日ヨーグルトを提供している。また排便困難者は主治医に相談し排泄に関わる疾病予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴に関しては週2回を予定しているが適宜本人希望も取り入れている。拒否等あった場合は無理時しないようにしている。	入浴は、週2回実施している。寝たきりの利用者は、家族の了解を得、ドライシャンプー使用し全身清拭しているほか、2人介助で入浴することもある。利用者の好みに応じてシャンプーの種類を変えるなど、個々に沿った支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個人の体調を考慮した対応に徹している。高齢であるため昼食後の休息は必ず休むよう対応に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとり使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入所者全員の薬ファイルを作成し誤薬を防止している。また投薬は確認投与を基本としている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の希望を優先しながら生活リハビリの茶碗ふき、タオルたたみを手伝ってくれている。本人も自分なりに役割を自覚し、ある意味それをやるのが楽しみになっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	高齢及び寝たきり状態のいる中、全員での外出は今年はできていない。必要時通院援助は行っている。タクシーは近隣の業者を活用している。	身体機能が低下し、コロナ禍でもあり、最近では全体での外出ができていない。散歩もできない状況にあり、事業所の南面で日光浴をしたり、外気浴の機会を設けている。10月末のコロナ自粛解除を待って散歩を再開する予定である。通院も外出の機会であり、家族とともに職員も同行している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設では金銭管理は行なっていないが、本人からの購入希望があった場合には家族の了解のもと立替え払いを原則としている。		

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : 岩手高齢協 ほっと南仙北

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入所者に手紙等あった場合は本人に手渡ししている。重要書類等は家族にその都度郵送している。電話等もあったときは取次等している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が発する言葉やしぐさなど観察しながら、必要な時にはチャート記載し申し送りノートを活用しスタッフ間で情報の共有に役立っている。	台所、食堂を兼ねた広いホールは、落ち着いた配色で、壁面には、季節のりんごや利用者の絵が飾られ、優しい雰囲気である。トイレ、洗面所、浴室も清潔に保たれている。ホールから、利用者と職員の会話や笑い声が聞こえてくる。職員は、利用者の出すサインを把握し、一人ひとりに寄り添ったケアに務めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングの食席は定期的に座る場所を変え利用者の固定観念をしないよう予防に努めている。利用者が安心して穏やかに過ごせるよう心掛けている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所する際は本人が以前から使用していたものなど持ち込みは推奨している。現在は持ち込んでいる利用者はいない。	各居室には、ベッド、クローゼットを配置しており、自宅で使い慣れたものや備品の持ち込みを勧めている。壁面のボードには、家族の写真、カレンダー、折り紙細工などが飾られ、居心地良く過ごせるよう工夫されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム全体はバリアフリーになっており又、トイレなどにも手すりを設置しており安全に移動ができるよう配慮している。		